

美の脇役

k, y

「大和（倭）は国のまほろば たたなづく
青垣山こも（隠）れる大和し うるわし」
ものの本によると

- ・まほろば（まほらば、まほろま）→素晴らしい場所
という意味の古語（ウキペディア）
- ・「まほろば」は「まほら」→「まほ」は接頭語「ら」
は場所→国の起源。発祥地
- 「ほら」は袋と言う意味→母の袋→子宮
- ・古事記第12代景行天皇の帝紀「望郷歌」とされる
私はこの歌が好きである。高校時代、二上山頂や大和
郡山の慈光院から眺めるとそのような感じがした
が・・・

中学校の頃から父と奈良やその周辺をよく歩き多くの神社仏閣や御陵を訪ねた。「日本のふるさと」と言われる大和、良く判らないままだったが何となく気持ちよく自分の心に風景が入り込んできた。住んでいる河内から生駒山を越えて奈良市内を始めとして西の京・垂仁天皇御陵・菅原寺から赤膚山、生駒山から暗（くらがり）峠・鳴川の千光寺（修験道の寺）、佐保路などは良く歩いた。

ある時、本殿に登る石段の登り始めの3段（踏み面）にうっすらと模様があることに気がつき、さらに最上段からの3段にも線彫りの模様を見つけた。又、屋根を支える斗供や蛙股（いずれも言葉は後で知った）の不思議な形にも興味があった。学生時代になってからは自転車で河内・大和などの名所旧跡を廻るようになり、西国三十三カ所観音霊場も7割くらいは自転車で廻った。深遠な豊かな緑に囲まれた古寺・社殿を拝しているうちにいつしか気候風土にマッチした古寺・古社・庭や古仏などの虜になり、さらにこのような主役（本殿とか本尊）を取り巻いている様々な部分、要素にも一流の技が目立たぬようにしつらえられていて、それぞれに意味を持ち、機能を満たし、主役を支えていることに気が付き、訪れるのがさらに楽しくなっていくた。



大学一年生（昭和34年）の6月6日、産経新聞記事に「美の脇役」と称する記事を見つけ、土曜日毎の掲載を楽しみに読むようになった。昭和35年11月に線彫り模様の石段が掲載された時に、中学当時の記憶が甦り、あの石段が二月堂の本堂へ登る石段であったことが判った。第一段（波浪模様）第二段（亀甲模様）第三段（唐草模様）が踏みつけられながらも願いごと成就への第一段階をつとめはたしてきた石段なのだ。

仕事についてからは、斑鳩の法輪寺三重の塔（昭和52年）の建設現場主任（八木氏）と親しかったので現場を訪ねては小川棟梁（西岡棟梁の一番弟子）さんから話を伺ったり、真新しい台檜で加工された斗供や心柱に触れて千年を越える木材の持つ力を実感した。仕事についてからは、斑鳩の法輪寺三重の塔（昭和52年）の建設現場主任（八木氏）と親しかったので現場を訪ねては小川棟梁（西岡棟梁の一番弟子）さんから話を伺ったり、真新しい台檜で加工された斗供や心柱に触れて千年を越える木材の持つ力を実感した。東大寺大仏殿大修理の現場では、屋根裏を歩き巨大さに驚くと同時に英国製の鉄骨で大梁が補強されている事を始めて知った。



法輪寺三重塔斗供（縮尺1/5） 竣工記念に頂いたもの

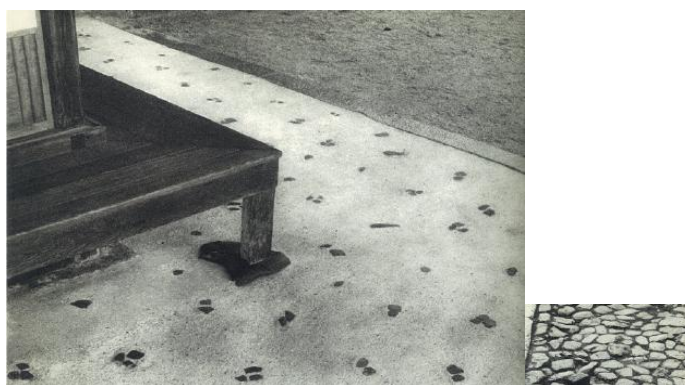
「美の脇役」とはちょっと聞き慣れない言葉ですが、とても含蓄のある言葉だと思います。それぞれの分野で鋭い審美眼と一家言を持つ専門家が毎回テーマを選び、その想像力豊かな文章が読み手を引き込みこんでしまう。写真もすばらしく、心を捕らえた好評のシリーズでした。

手元に当時の新聞（毎週土曜日掲載）の切り抜きが140枚ほどあるが、今も出かける前にはひもとき現地で見つける喜びを味わうようにしている。



・勇壮な天守を持つ白鷺城の狭間 白壁に塗り込まれた四角、三角や丸の銃眼—平和な時代に作られた城のためか？余裕が感じられる美しさ。（新聞掲載写真の部分）

・修学院離宮 上の茶屋「隣雲亭」の上がり口の一三（ひふみ）石 赤、青、黒の組み合わせ。天台では一心三観（空観、仮（け）観、中観）を表すという。



・大徳寺山内参道

このような石畳が幾重にも折れながら、塔頭に囲まれて続いている。雨上がりに歩むと特に気持が引き締まる。

塔頭の僧によると墓石や古い五輪塔のかさ石を裏返して敷いたものとか。



・梶尾の高山寺石水院



明恵上人が再興した寺院はさる貴人のすまい。格子戸で四季のいろと香りをさわやかに運んでくれる。蛙股が逸品！

個人的な話を長々と披露することになって申し訳なかったのですが、白州正子のような含蓄のある名文は書けないにしろ、モノ造りに関わった多くの職人達の思い入れと巧みな技に日本文化の深さ・凄さを感じながら、写真とコメントを付けた自分なりの「美の脇役」を綴っていきたい。（修学院と大徳寺は新聞掲載写真から）

平城遷都 1250年の頃に私は大和を歩き始め、今年で50年が過ぎた。250分の1は短くて一瞬のように思えるが、時の流れにもスピード差があるようでこの50年での環境の変化には先人達も驚いていることでしょう。

1992年に「美の脇役」の単行本を古書店で見つけた。「あとがき」の抜粋

脇役とあえて題をつけたのは、二流、三流の文化財をねらったからではない。目立たぬ存在ながら、捨てがたい興味、価値をもつものを、精選の上クローズアップし、祖先が、脇役にも、絶大な敬意と関心を払ってきたことを改めて認識していただきたかったからにほかならない。・・・私の思いは編集局長の狙いに通じていた！

私の収集した「美の脇役」から幾つかを紹介します。
誌面の関係でコメントは割愛します。



近江日野 綿引神社太鼓橋 ↑
宇治万福寺 卍崩しの手摺 ↓



・近江 油日神社 護国の豊作を祈る「ずずいこ」様
美の脇役になるのかどうか？いささか気兼ねをする
写真ですが、力強い木彫り人形です。今も神社では毎
年春、「ずずいこ」様をいただいて、田の畦を歩き豊
饒を祈る民俗的な行事をおこなっているとのこと。

近江には京・大和ほどは俗化されてなくて、鎮守の
森に囲まれた神社や山里にひっそりと佇む寺院があ
ります。訪ねてみたいところが沢山あります。

以上